


謡曲詞章検索用簡易データベースの使い方

1. エクセル立ち上げた時の注意事項

謡曲詞章検索用簡易データベースをダウンロードして本ファイルを立ち上げた時、二種類の警告が出る可能性があります。警告が出た時は以下の対応をお願いします。

①「検索画面」等のコマンドボタンを押すとエクセルのマクロが実行される設定ですが、マイクロソフトのシステムはファイルの安全性が確認できないときはマクロの動作をブロックします。

警告画面例


 セキュリティリスク このファイルのソースが信頼されていないので、Microsoftはマクロの実行をブロックしています。

本ファイルは安全ですので下記のように設定をお願いします。

エクセルを一旦閉じて、ファイルのアイコン(又はファイル名)上で右クリックをし、ファイルのプロパティを開きます。「全般」タブの下には、「このファイルは他のコンピュータから取得したものです。このコンピュータを保護するため、このファイルへのアクセスはブロックされる可能性があります。」という表示があり、その横の「許可する」にチェックを入れて OK を押すとブロックが解除されます。

②本ファイルを起動させたとき、マクロ無効の警告が出る場合があります。

警告画面例

 セキュリティの警告 マクロが無効にされました。

「コンテンツの有効化」を選択して、ファイルを上書き保存してください。

2. データベース機能概要

- ・ 謡曲の詞章の一部を入力することで、その言葉を含む謡曲名および句を検索できます。ただし、検索は詞章の部分のみを対象としています。
- ・ 入力は最大二語。その二語は、「または(OR)」か「かつ(AND)」の関係で検索できます。
- ・ 検索された複数の句から、一つ選択して、曲全体の詞章を表示することができます。
- ・ 上記操作で曲全体を表示した後、再び先ほどの検索結果一覧に戻ることもできます。

3. エクセルの構成

- ・ A 列: 曲名
- ・ B 列: 構成(段)番号(底本には記載されていません。古典大系等の謡曲集から参照しました)
- ・ C 列: 小段の名称等 (底本の表記通り。古典大系等の謡曲集の小段名と異なる場合があります)
- ・ D 列: シテ、ワキなど役名等 (底本の表記通り)
- ・ E 列: 詞章 (検索対象)

・F列:底本のページ

・1行目:操作コマンド

「検索画面」「選択詞章へ移動」「初期画面に戻る」「検索結果に戻る」

4. コマンドの説明

・「検索画面」:検索入力画面が表示されます。

・「選択詞章へ移動」:検索結果一覧からひとつの句(一行)を選択して、このコマンドを行えば選択した句(一行)を含む曲の詞章全体を表示することができます。

・「初期画面に戻る」:エクセルの先頭に戻り、初期画面が表示されます。

・「検索結果に戻る」:「検索画面」で得られた検索結果の一覧に戻ることができます。

5. 検索入力画面の説明

・文字入力枠:二か所あり、異なる文字列を入れることができます。一か所のみ入れるときは上段に入れてください。下段だけ文字列を入れた時は、検索できない場合があります。入力枠の初期設定は日本語入力モードです。

・二か所の文字列の関係として「または(OR)」か「かつ(AND)」をボタンで設定できます。どちらも選択されていない場合は「または(OR)」となります。

・「または(OR)」の時は、二つの文字列のどちらかが含まれる句(行)が検索できます。

同じ言葉でも、複数の表記が想定されるときなどで有効に使えます。

・「かつ(AND)」の時は、二つの文字列の両方が含まれる句(行)が検索できます。一つの文字列で多くの検索結果が出た時、第二の文字列で絞り込むことができます。

6. 操作画面例

・Step1 初期画面

	A	B	C	D	E	F
1		謡曲データベース	Ver0.3		検索画面 選択詞章へ移動 初期画面に戻る 検索結果に戻る	
2	曲名	構成番号	小段名、他	役名、他	諸情報と詞章 謡曲三百五十番集 底本 日本名著全集『謡曲三百五十番集』 赤尾照文堂『謡曲二百五十番集』 底本のデジタルデータ「半魚文庫」をベースに詞章データベースを構築	底本ページ
3	<T 翁>			<T 翁>		
4				<N1>		
5				<K 季不定>		
6				<A シテ>翁		
7				<A ツレ>千歳		
8				<A 狂言>三番叟		
9				<S 赤尾>		
10			<初日>			<P 3a>
11			翁	どう／＼たたり／＼ら、たたりあがりらゝりとう、		
12			地	ちりやたらりたらりら、たたりあがりらゝりとう、		
13			翁	処千代までおはしませ。		
14			地	我等も千秋さむらふ。		
15			翁	鶴と亀との齡にて。		
16			地	幸ひ心に任せたり。		
17			翁	どう／＼たたり／＼ら、		
18			地	ちりやたらりたらりら、たたりあがりらゝりとう、		
19			千歳	鳴るは瀧の水、／＼、日は照るとも、		
20			地	絶えずつたりありうとうとうとう、		
21			千歳	絶えずつたり常にとうたり、		
22			千歳之舞			
23				処千代までおはしませ。		

・Step2 検索文字の入力:「検索画面」ボタンを押して、入力画面をだす。検索文字として仮に「無常」と「老い」を入れて、「検索」ボタンを押す。

①「検索画面」ボタン

②キーワード入力

③検索ボタン

・Step3 検索結果:「無常」又は「老い」を含む句が選択されて表示される。

・Step4 選択句から詞章本体へ移動:「選択詞章へ移動」ボタンで移動

①セルを選択

②「選択詞章へ移動」ボタン

・Step5 詞章全体の表示:選択された句を先頭に〈井筒〉の詞章を表示

	A	B	C	D	E	F
1		謡曲データベース	Ver3.3		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> 検索画面 選択詞章へ移動 初期画面に戻る 検索結果に戻る </div>	
2	曲名	構成番号	小段名、他	役名、他	諸情報と詞章 謡曲三百五十番集 底本 日本名著全集『謡曲三百五十番集』 赤尾照文堂『謡曲二百五十番集』 底本のデジタルデータ「半魚文庫」をベースに詞章データベースを構築	底本ページ
3924		4		地歌	名ばかりは、在原寺の跡旧りて、〱、松も老いたる塚の草、これこそそれよせき跡の、一村すすきの穂に出づるはいつの名残なるらん、草茫茫として露深々と古塚の、真なるかな古の、跡なつかしき景色かな〱。	
3925				ワキ 詞	なほ〱業平の御事委しく御物語り候へ、	
3926		クリ		地	昔在原の中將、年経てこゝにいその上、ふりにし里も花の香、月の秋とて、住み給ひしに、	
3927		サシ		シテ	其頃は紀の有常が娘と契り、妹背の心浅からざりしに、	
3928				地	又河内の国高安の里に、知る人ありて二道に、忍びて遣ひ給ひしに、	
3929				シテ	風ふけば沖つ白波立田山、	
3930				地	夜半には君がひとり行くらんとおぼつか波の夜の道、ゆくへを思ふ心遠げてよその契りはかれ〱なり、	<P 147b>
				シテ	げに情知る、うたかたの、	
				地	あはれを述べしも理なり、	
3933					昔この国に、住む人の有りけるが、宿をならべて門の前、井筒によりてうなみ子の、友達かたはりて、互に影を水鏡、面ならべ袖を懸け、心の水も底ひなく、うつる月日も重なりて、おどなく恥ぢがはしく、たがひに今はなりけり、其後かのみめ男、言葉の露の玉章の、心の花も色そひて、	
3934				シテ	筒井筒、井筒に懸けしまるが丈、	
				地	生ひしにけらしな、妹見ざる間にと詠みて贈りける程に、その時女もくらべこし振分髪も肩過ぎぬ、君ならずして、誰かあくべきと互に詠みし故なれや、筒井筒の女とも、聞えしは有常が、娘の旧き名なるべし、	
3935		5	ロンギ	地	げにや旧りにし物語、聞けば妙なる有様の、あやしや名のりおはしませ、	
3936				シテ	顔は我が恋衣、紀の有常が娘とも、いさ白波の立田山夜半にまぎれて来りたり、	<P 147c>
3937				地	ふしきやさては立田山、色にそ出づるもみち葉の、	
3938				シテ	紀の有常が娘とも、	
3939				地	又は井筒の女とも、	
3940				地		

井筒の詞章

- ・「検索結果に戻る」ボタンで Step3の画面に戻る。
- ・「初期画面に戻る」ボタンで Step1 の画面に戻る。

6. データベースの底本について

- ・底本 日本名著全集『謡曲三百五十番集』、赤尾照文堂『謡曲二百五十番集』
- ・デジタルデータ 半魚文庫の UTAI を参照させていただきました。

<http://hangyo.sakura.ne.jp/utahi/>

本デジタルデータは、金沢美術工芸大学 美術工芸学部 高橋明彦 教授が提唱した能の詞章をデジタル化するプロジェクトに多数のメンバーが参加して、完成したものです。デジタル入力されたプロジェクトメンバーに感謝いたします。

7. 半魚文庫のデジタルデータと本ファイルの差異

- ・JIS 外字をフリガナや漢和辞典番号ではなく、ユニコードを使って JIS 外字フォントで表示します。ただし、システム的环境によっては表示されない場合があります。
- ・フリガナや演出については、表記が区々であるためすべて削除しました。
- ・その他、疑問と思われる箇所については、底本や他の謡本に拠って訂正しました。

以上